



ヘルパンギーナが3地域で警報レベルです

今週のヘルパンギーナの報告数は176件で、前週より報告数が64件増えました。5週連続で報告数が増加し、宇城、菊池、天草が警報開始基準を超えました。例年、7～8月にピークを迎えるため、今後、その他の地域でも報告数が大きく増加することが予想されますので、以下の点に注意して予防に努めましょう。

感染症状と感染経路

- ・突然の高熱が出て、口の中に水疱・発赤が出現し、痛みを伴うことがあります。
- ・咳やくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染します(飛沫感染)。
- ・便に排出されたウイルスが手などを介し、口や眼などの粘膜に入って感染します(経口、接触感染)。

予防のポイント

- ・外から帰った後、食事の前、トイレの後などに手洗いをしっかりと行うことが大切です。また、うがいも有効です。
- ・幼稚園、保育園や学校などの集団生活では、タオルを共用することは避けましょう。
- ・予防接種はありません。

災害発生時の衛生管理について

災害で被害を受けた地域では、消化器系や呼吸器系などの感染症、あるいは食中毒が発生する可能性が高くなりますので、衛生管理に注意し病気を予防することが大切です。以下の点に注意して感染症や食中毒の予防に努めましょう。

1. 手洗い・マスクの着用について

- (1) 外出後、トイレの後、汚物の取扱い後、調理や食事の前には石鹸と流水でしっかり手を洗うようにしましょう。
- (2) 流水がない場合は、逆性石けん液(市販されています)を手にもみ込むようにして、その後乾燥させることである程度の効果が期待できます。また、その他の消毒液がある場合は、それらを上手に活用しましょう。
- (3) せきが出る場合はマスクを着用しましょう。

2. 食べ物について

- (1) 調理をする場合はできる限り衛生的な環境で、新鮮な材料、清潔な器具によって調理しましょう。
- (2) 加熱したものを食べるようにし、調理したものは早めに食べましょう。
- (3) 湧水や井戸水は細菌などによる汚染の可能性があるため、安全性を確認してから使用しましょう。

3. 片づけをする際について

- (1) がれきや泥などの片づけなどをする際は、手袋、長靴を着用するなどしてケガをしないよう注意しましょう。ケガをした場合は、きれいな水で洗い流し、消毒しましょう。また、ケガがひどいようなら医療機関を受診しましょう。
- (2) 家屋等が浸水した場合は、まず不要な物を片付け、泥などの汚れを水で洗い流します。その後、雑巾等で吸水し、扇風機などを利用して乾燥させてから消毒薬を用いましょう。また、消毒薬を使用する場合は、必要に応じてマスクやメガネを着用しましょう。

4. その他

- (1) 夏から秋にかけて蚊の活動が活発になりますので、肌の露出を減らし、虫よけスプレーなどをうまく活用しましょう。



ヘルパンギーナが3地域で警報レベルです



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 3	5	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↓ 4	11	ヘルパンギーナ	↑ 176	112
咽頭結膜熱	↓ 16	21	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 100	76
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑ 108	84	急性出血性結膜炎	↑ 1	0
感染性胃腸炎	↓ 326	345	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 12	13
水痘	↓ 5	8	細菌性髄膜炎	↑ 1	0
手足口病	↑ 47	42	無菌性髄膜炎	↓ 0	2
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 6	19	マイコプラズマ肺炎	↓ 4	9
突発性発疹	↓ 40	48	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑ 2	0

報告が多い感染症
 ● 感染性胃腸炎
 ● ヘルパンギーナ
 ● A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域
 ヘルパンギーナ : 菊池、宇城、天草
 伝染性紅斑 : 八代

保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
1 熊本市保健所	1	2	2	45	72	0	19	1	16	0	37	24	1	11	1	0	1	0	2
2 山鹿保健所	0	0	2	0	21	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	1	1	6	22	91	4	18	1	6	0	42	14	0	1	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 御船保健所	0	0	0	9	13	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	0	0	6	34	0	1	0	2	0	6	35	0	0	0	0	1	0	0
7 水俣保健所	0	1	0	0	1	0	2	0	6	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0
8 人吉保健所	0	0	0	0	9	0	0	0	3	0	5	5	0	0	0	0	1	0	0
9 有明保健所	0	0	3	6	61	0	0	0	4	0	19	7	0	0	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	1	0	0	15	13	0	5	2	0	0	39	6	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	0	3	5	10	0	2	2	1	0	27	6	0	0	0	0	0	0	0
計	3	4	16	108	326	5	47	6	40	0	176	100	1	12	1	0	4	0	2

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5月	6-11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
小児科定点年齢区分	合計	0-5月	6-11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	4	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0							
咽頭結膜熱	16	0	0	6	3	2	1	0	0	0	0	1	2	0	1							
A群溶連菌咽頭炎	108	0	0	2	13	13	19	16	11	8	9	7	9	1	0							
感染性胃腸炎	326	5	29	52	42	34	21	23	26	14	7	15	28	7	23							
水痘	5	0	0	0	1	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0							
手足口病	47	0	3	17	11	10	4	2	0	0	0	0	0	0	0							
伝染性紅斑	6	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1							
突発性発疹	40	2	17	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
ヘルパンギーナ	176	0	21	58	49	17	11	10	7	3	0	0	0	0	0							
流行性耳下腺炎	100	0	1	3	10	23	23	18	5	4	4	3	4	0	2							
眼科定点年齢区分	合計	0-5月	6-11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0		
流行性角結膜炎	12	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6	1	3	1	0		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	4	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						

